ほかほかだより

2025.5.1

ひかり幼稚園では

・一人ひとりの個性を大切にし、自分を大切にできる心を育む

・友だちに思いを伝え認め合える

上記のような豊かな仲間関係を築いていくため、**“人権を大切にする保育・教育(人権教育)”**に取り組んでいます。

子どもたちはたくさんの人との出会いや触れ合いを通して、様々な文化を知り、体験を重ねています。その中で、ありのままの自分を見つめ、他者(違い)を認め『自分のことが大切だから、みんなも大切』と感じてほしいと考えています。そしてこれから先、さまざまな人と出会ったときに『見た目や先入観で人を判断せず、相手を受け入れられる心が育ってほしい』と願っています。

『ほかほかだより』は人権教育の取り組み内容をお知らせします。お家の方と私たちが同じ思いをもって、子育てしていけるように願っています。

今回はこいのぼりの造形あそびをして、端午の節句について話しました。

【端午の節句】

昔は、男の子が誕生すると武家たちが、のぼりを立てて成長を祝っていました。それが次第に、鯉が滝を登り龍になるという言い伝えから「強い心を持った子になってほしい」との願いがこめられ鯉のぼりをあげるようになりました。

【こどもの日について】

子どもに関する風習としては３月３日の「ひな祭り」と５月５日の「端午の節句」があり、これを合わせて５月３日とする案もありましたが、５月３日は憲法記念日とすることとなったため、季節のよい５月５日にすることとされました。こどもの日が５月５日とされた背景にはこうした経緯があり、「決して男の子だけを対象としたのではない」と説明されています。

３歳児は

こいのぼりは「子どもたちがすくすくと育つように」という思いがあることを伝えました。また柏餅やちまきなどをなぜ食べるのか？という話もしました。

４・５歳児は、

ホールに集まり、こいのぼりや柏餅などのスライドを見ながら話を聞きました。鯉は滝を登って龍になる力強さがあり、子どもたちがすくすくと育つよう願いがこめられていることや、柏餅の葉やちまきの笹、菖蒲湯に意味があることを知りました。

「こいのぼり」の歌を歌ったり、絵本を読んだりしながらこいのぼりやその由来などに親しみをもっています。こいのぼりの鯉の大きさ等は、“お父さんは大きい”“お母さんは赤色”等と言われる事もありますが、身体の大きさ・好みの色等、一人ひとりに違いがある事に気づく機会にしています。

３歳児は、
こいのぼりのうろこの色を塗り、のりで貼りました

４歳児は、
紙を輪っかにしてうろこを表現し、貼り付けました。

５歳児は、
うろこを編み込みでつくりました。

子どもたちに話をした内容をいくつか紹介します。

こいのぼりの他にも…

・「しょうぶ（菖蒲）」強いにおいがあるので「魔除け」病気やケガから体を守る意味がある。

・「柏餅の葉」落ちることがなく、枯れない葉である。強い葉、柏の様に強くなって欲しいという意味や、健やかな成長を願うという意味もある。